

## 第4回ぶっとびファンド第1次審査 総評及び第2次審査に期待すること

コロナ禍で何かと制約が多い中、「第4回ぶっとびファンド」へ果敢にエントリーくださりありがとうございます。

「ぶっとびファンド」は今回が最後の公募となります。回を重ねるごとに「アートで人とまちをシェアに」するという目的が申請者に伝わっている手応えを感じてきましたが、今回の募集では、当初は想像していなかった、福岡以外の地域からの申請もあり、ここまで広がったか、と感慨深い思いです。

結果として、応募いただいた全ての団体に第2次審査に進んでいただくこととなりましたが、審査の段階では通過させるかどうか議論になった団体も少なくありませんでした。

- ・「アートで人とまちをシェアに」というアートサポートふくおかの理念に合致しているかどうか。
- ・一時的な補填ではなく、将来的な波及効果が期待できるものか。
- ・これまでの「ぶっとびファンド」の助成団体とつながりを持つとより活動が発展しそうか。
- ・そして、実際に10万円をお渡しした場合に、それが何倍もの効果をもって社会に還元されるかどうか。

この助成金は投げ銭のようなものなので、支援させていただいた後、どのような使われ方をしても問題ありません。ですが、「やってみただけできなかった」ということと、「やらなかった」ということには、大きな溝があります。その挑戦のプロセスこそが「アートで人とまちをシェアに」する第一歩なのだと思います。

第1次審査の動画では、応募者と推薦者に思いや願いを語っていただいています。短い時間の中でしたが、切実さが伝わるプレゼンテーションが複数あり、共感もしました。支援を求める際に「切実さ」が伝わるかどうかは大事なことです。ただ、それと同時に、伝えようとする相手の理解や支持を得るためには「引いた目線」も大事になります。申請する企画の背景を、個人的な立場だけではなく社会的な立場で、主観的な視点だけではなく客観的な視点で語ることも、伝える技術の一つだと思います。

第2次審査では、第1次審査の動画で伝えていただいた「思い」を踏まえ、さらに具体的な活動の内容についてお聞かせいただければありがたいです。また、さまざまな人たちと共に取り組む想定でおられましたら、どんな人たちとどのように取り組むのかということについても、具体的にうかがいたいと思います。

第2次審査会でお目にかかれることを楽しみにしております。